重監房資料館だより
くりう
KURIU
No.12
2018.3

強制収容の歴史をたずねて
―アウシュビッツ博物館―

重監房資料館 学芸員　柏木　亨介

【アウシュビッツ収容所に残されていた子どもの靴】

平成30年(2018年)1月、ポーランドのアウシュビッツ博物館をはじめとする欧州の負の歴史に関わる各地の博物館を訪問し、第二次世界大戦中、ナチスによる強制労働、大量殺戮（ホロコースト）の実態とその展示・解説方法について視察を行いました。

アウシュビッツ博物館は、アウシュビッツ・ビルケナウ強制収容所跡地を見学できるようにした施設です。そこでナチスによるホロコーストの痕跡を見ることができます。人類史上、類を見ない大量殺戮が行われた場所として有名ですが、被害者数の多寡が問題なのではないことが見学するとわかります。展示品には、子どもの靴、義足や杖、大量の髪の毛などがあり、一人一人の犠牲者にかけがえのない人生があったことを教えてくれます。

現在、アウシュビッツ博物館にはEU（欧州連合）の教育プログラムに同地の見学が組まれていることもあって、とりわけ欧州中の生徒・学生がたくさん訪れるそうです。EUの理念を体現するにあたり、他者との共存の仕方が喫緊の課題となるなかで、次世代に過去のあやまちを伝えていくことが求められているのです。

重監房資料館ではハンセン病をめぐる差別と偏見の解消に向けた普及啓発に取り組んでいるところですが、日本のハンセン病政策のあやまちを踏まえてどのような社会を築き上げていくのか、そのために何を伝えていくのかは、開館準備中の所を含めて全国18カ所にあるハンセン病に関する資料館やハンセン病療養所の社会交流会館等にとって重要な課題です。

アウシュビッツ博物館におけるEUの歴史教育への取り組みをはじめ、今回の視察で得た普及啓発に関する数々の知見を今後に活かすべく、引き続き努力して行くことが必要だと思います。

私たちは未来の人達に対する大きな責任を負っていることを改めて気付かせてくれる視察となりました。

【ガス室（アウシュビッツ第1収容所）】

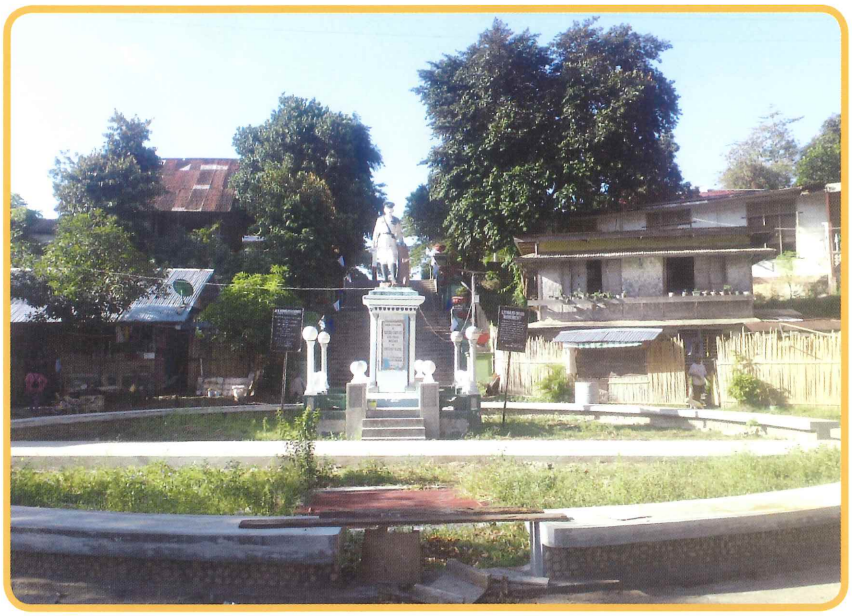
フィリピン共和国のハンセン病対策を視察して（寄稿）

国立療養所栗生楽泉園 社会交流会館 学芸員　千川　直康

平成29年（2017年）12月6日から13日までの日程で、全国の国立ハンセン病療養所13園から医師、看護師などの医療職、行政職や医療社会事業専門員、学芸員など23名が参加した「第4回ハンセン病医療従事者フィリピン研修」に同行しましたので、本紙をお借りして報告します。

我々は6日にフィリピンのセブ島に到着し、翌日から6日間にわたりフィリピンの主だった地域を巡って視察してきました。

セブ島のセブ・スキンクリニックでは、スライド学習の後、皮膚スメアや知覚テスト用フィラメントでの臨床検査を見学しました。また、フィリピン保健省第7地域事務所とラプラプ市の保健所を訪問して、ハンセン病に対する現場の医療体制の実態にも触れることができました。



【クリオン島内歴史保存地区（レオナルド・ウッド・モニュメント）】

エバースレイ・チャイルズ療養所では、同院関係者による医療方針や将来に向けた取り組みなどを伺ったほか、歴史資料を展示したミュージアムなど所内の様子を見学しました。また、ハンセン病回復者で組織される団体「IDEA」の皆様にもお会いしましたが、皆さん明るく賑々しい雰囲気で歓迎の歌をご披露してくださり、回復者の皆様の生きるパワーを実感しました。

かつて世界最大のハンセン病療養所と言われたクリオン島のハンセン病療養所・総合病院を2日間かけて視察し、国家プロジェクトでひと区画丸ごと使った収蔵庫等、フィリピン国内のハンセン病の実状や歴史を理解するための知識に繋がる国を挙げた取り組みを目の当たりにしました。クリオンミュージアム・アンド・アーカイブスには、デジタルアーカイブ化を進めている膨大な記録が収蔵資料として良好な状態で保存されていました。

マニラのDr. ホセNロドリゲス記念病院では各科を視察し、若いハンセン病患者が多かった以前と違い、老人ケアを主体とした高齢者医療の方が重要になっているとの説明を受けました。ハンセン病患者や回復者の自立支援など様々な取り組みを行うため、ホセRレイエス記念メディカルセンターが創設した「ハンセンズ・クラブ」での交流では、ハンセン病患者、回復者の皆様をはじめ、医療スタッフの皆様によるパネルディスカッションを拝聴しました。最後に訪れたフィリピン保健省では、ハンセン病担当職員からフィリピン特有のハンセン病対策に関する詳細な説明がありました。この視察で得た貴重な経験を今後の社会交流会館における学芸活動に活かして行きたいと思っています。

【アーカイブ化を待つ区分けされたクリオンミュージアムの収蔵資料】

アメリカでの資料調査（その１）―カーヴィルの歴史探訪―

重監房資料館 主任学芸員　北原　誠

【引き取り拒否されたコーラ瓶のオブジェ】

平成30年（2018年）2月にアメリカ合衆国を訪れ、ハンセン病関連の資料調査を行いました。そのうち今回は、アメリカ合衆国ルイジアナ州にあった旧カーヴィル病院・研究所の跡地にある国立ハンセン病博物館について報告します。カーヴィルは、かつて世界のハンセン病研究をリードした所で、「ハンセン病の特効薬」と謳われたプロミンの有効性を科学的に証明した史実は「カーヴィルの奇跡」として今なお語り継がれています。

カーヴィルは研究機能をもった国立病院として1999年まで使われていました。現在残っている建物は、1941年に更新されたもので、今は軍事施設（ルイジアナ州陸軍）になっています。正門を入ったすぐ右側に旧事務本館だった白い建物があり、その隣が国立ハンセン病博物館です。それより奥の方は軍事施設のため本来は立ち入り禁止になっていますが、日本から来たハンセン病関係の学芸員と言う事で特別に立ち入りが許可され、旧病舎地区の建物内も見てきました。

【カーヴィル刑務所で使用された鍵と手錠】

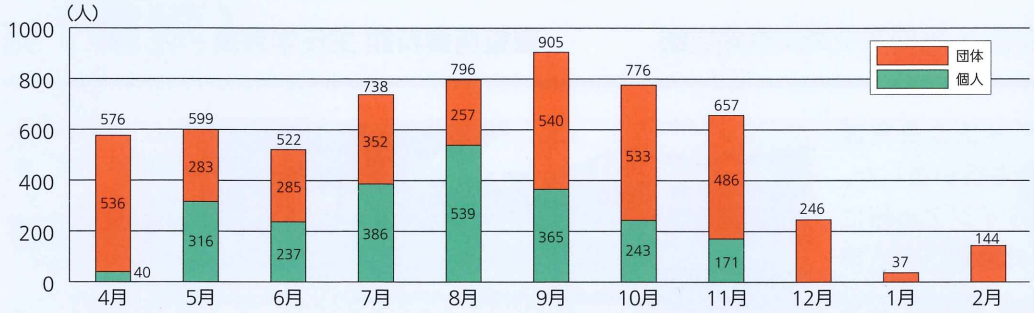
残念ながら患者刑務所は取り壊されていましたが、敷地内には、病院だった頃の建物が多く残されていて今は亡き入所者の墓地も参拝しましたが、墓地の手前に沢山のコーラの瓶で模った星がありました。コーラの空き瓶を返却すると１本につき数セント返還された時代、患者の空き瓶の引き取りを拒否し続けたコーラ会社の偏見差別に対する抗議の意思表示として、象徴的意味のあるオブジェです。改めて「自由の国アメリカにも患者差別があった」ことを目の当たりにし、問題の根深さと普及啓発の重要性を考えさせられました。

アメリカ国立ハンセン病博物館には、往時の患者さん達の生活の歴史展示や証言映像等とともに、治療や研究に関するものも展示されていました。展示品の中には、初期のプロミン治療に使われたアンプルの写真（実物は残っていない。）や症例、患者記録（個人が特定できないものに限る。）のほか、患者刑務所が運用されていた1927年から1957年までに収容された人のリスト等もありました。特に印象深かったのは、実際の監獄で使われていた厳重な鍵や監守が巡視の時に使った打刻式タイムキーパー（大きな懐中時計のような形をしたもの。）、囚人の出入りに使ったと言う鋼鉄製の頑丈な手錠等の展示です。ただし、カーヴィル刑務所は一応連邦法に従って開設されており、仲間の患者に対する殺人の罪で有罪判決を受けた51歳の患者を投獄するため、1927年12月25日に設置されたのが始まりということです。

【カーヴィルの奇跡と言われたプロミン】

平成29年度　来館者統計

平成30年2月28日現在



平成29年度入館者数

延べ	5,999人
一日平均	21.4人
開館以来延べ	27,549人

ホームページアクセス数

平成29年度	45,938回
開館以来延べ	147,649回

冬季（11月15日から4月25日）は、団体専用期間です。5名様以上のグループで事前にネット予約をお願いします。

お客様の声（来館者アンケートより抜粋）

◎草津の観光客が一人でも多く訪れるように宣伝に工夫して欲しい。（東京都、52歳・男性、看護師）

◎同じ事を繰り返してはならないと強く感じた。（愛知県、41歳・男性、会社員）

◎衝撃を受けた。今まで知らなかったことを恥ずかしく思った。（島根県、29歳・女性、公務員）

◎人権について改めて思わされた。180度考えが変わった。（山梨県、59歳・女性、主婦）

◎その当時、自分も生きていて知識もなかったら同じようにひどい行動をとっていると思うと恐ろしくて切ない。（神奈川県、55歳・女性、看護師）

◎宣伝がダメだ。草津温泉に来ても知らない人がほとんどだと思う。（長野県、55歳・男性、農業）

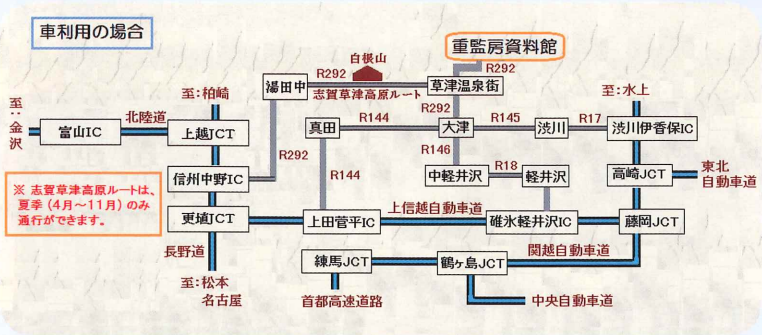
【この他にも、多くの皆様からご感想をお寄せ頂きました。有難うございました。】

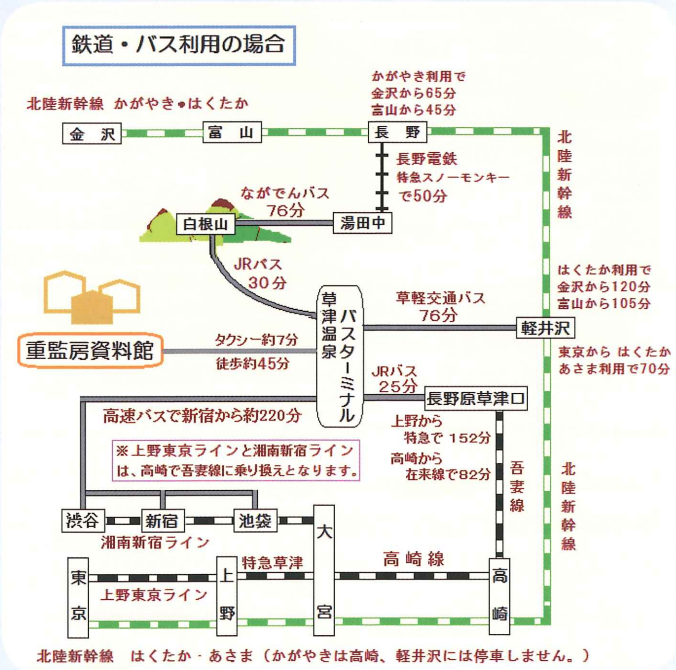
ご利用案内・アクセス

入館料…無料

※個人見学は、4月26日から11月14日の期間となりますのでご注意ください。

区分	フルオープン期間（4月26日～11月14日）	団体専用期間（11月15日～4月25日）
受付対象	個人（開館時間内の見学自由） 団体及び学校等（ネット予約制）	団体及び学校等（ネット予約制） ※5名以上のグループ対象
開館時間	午前9時30分～午後4時00分 （最終入館 午後3時30分）	午前10時00分～午後3時30分 （最終入館 午後3時00分）
休館日	毎週月曜日（祝日の場合翌日） 国民の祝日の翌日・年末年始・館内整理日	





重監房資料館だより「くりう」第12号【季刊】
発行日：平成30年（2018年）3月1日／企画・編集・発行：重監房資料館
〒377-1711　群馬県吾妻郡草津町草津白根464-1533　TEL：0279-88-1550　URL：http://sjpm.hansen-dis.jp/

重監房資料館はハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指して国（厚生労働省）が設置した国立の資料館で入館は無料です。

厚生労働省 Ministry of Health, Labour and Welfare